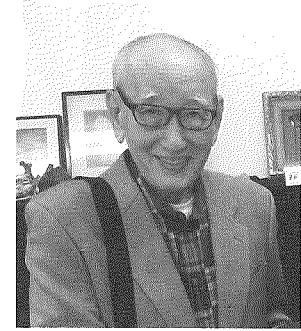


元会長 寺内安彦さんを偲ぶ

理事 ルカ 永井信行



「ファーリ竹」（ファーラザイ竹田）または「鐵神父」の愛称で皆から慕われていた竹田鐵三神父は、嘷めば嘷むほど味のある稀有の大人（たいじん）であつた。

で学校は池袋に移転、竹田少年は築地から野原の中の池袋に通つた。中学生の時に受洗し、立教大学宗教科に進んだ。大学時代には相撲部員の助つ人として公式試合に出場したことある。因みに後の八代斌助主教も同じく相撲経験者であつた。相撲で必須の気合とシコと丹田の鍛えが、その後の健康管理に生かされた。

やがてボストンの聖ヨハネ修道院で修練に励み、帰国して後は先輩修道士と三名で小山に聖ヨハネ修士会(修道院)を設立した。戦争末期の立教ではチャペルは倉庫と化し、学生は学徒動員され、神学院は閉鎖された。そのような壊滅状態から復興へと導いたのがフアーヴィーであった。

その後、フアーヴィーは立教のチャプレンとして、いつもキヤソックに三つ結びの紐を締めた姿で筆ペンとメモを持ち歩き、信仰面はもとより、墨・書の道と松根東洋城門下の俳句の道で

今日では恐らくハラスメント發言で物議を醸したに違いない。さて、ファーザーと関わりが深く、さらに我がBSAのスタート拠点である立教チャペルは今年一月で献堂百年の節目を迎えた。そしてファーザーが八十九歳で天に召されて早や三十年。私たちBSAはこの時にあたり、ファーザーの思いをしつかりと伝える務めがあろう。

最後にファーザー愛唱の聖歌四六六(現四六八)番の一節で本稿の結びとしたい。

翻訳上の問題点
丸山真男は、評論家・加藤周一代との対談、「翻訳と日本の近代」(岩波新書、1998)の中で、「江戸時代、本居宣長と荻生徂徠は今の言葉のイメージで古典を解釈してはいけない。いにしえの時代を理解するにはその時代の言語体系や語法、話法を知らないければだめだ。いまの語法、話法をその時代に投影したらわからなくなると考えていい」といつていて。私のつまずきもそこにあつた。

『聖書協会共同訳』の翻訳委員の一人である小林進司祭がナザレ修女会での旧約聖書講義で、こんな話をしておられる。「聖書は意味が多義的で、その多義性の中から意味を選択する。翻訳はなかなか厄介な問題である。古くは仏典や儒学書が中国から伝えられた時から日本人の

寺内さんは一言でいえは、優しい人だつたと思います。2001年に伊達宗浩さんから会長を引き継がれました。伊達さんはボーラッシュユ亡き後BSAを立て直されたまさに一本杉の様な存在でBSAの代名詞のような方でしたから引き継ぎするほうもされるほうも大変だつたと思います。実際に会長代行として一年間ご一緒に仕事をされてから就任されました。

やはり伊達さんから引き継がれた国見先生のキリシタン遺跡探訪の旅には伊達さん、倉石さん、吉川誠さん、寺内さんはほとんどのツアーに参加されたのではないか。何回か紀行文を書かれています。寺内さんはBSAセミナーをとても熱心に企画されました。箱根の福住楼で国見先生のお話、熱海の翠光園で、竹田主教、竹内謙太郎司祭のお話など、大磯でも開かれています。とても楽しい催しで、賛助会員の増加にもつながりました。

90周年記念誌の座談会の時、一番気を使われたこととして、2005年の定款の変更を挙げられました。当時の文化庁の指導で、決算も予算も一緒にまとまることになりました。決算総会をすることにして現在の法人の基礎を整えられました。

先日足立会長が米国のBSA支部が誕生したという記事を見つけました。寺内さんは折に触

されで、真っ先に行つたのは盛岡支部と福岡支部の訪問でした。V I S I O N で施設訪問記シリーズを企画したとき、九十九里ホームに行こうと言われ、一緒に退任されてからは、これから月に一度は他の教会に行つて、東京教区全部回つたら最後に小笠原に行くと言つておられました。その時は一緒にしたいとひそかに思つていたのですがかないませんでした。奥様と一緒だったアッセンジ巡回の旅の様子を V I S I O N に寄せられました。

なにかあつてご自宅に電話しますと、大概奥様が出られます。そして「安彦さん」とお呼びになるのです。ふんわりとした雰囲気が伝わってきてこちらも幸せな気分になります。寺内さんは「幸せを売る男」でもあつたようですが、もう一度ゆつくりとお話をしたかった。残念になりました。私を B.S.A. を好きしてくれた方のお一人です。ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

聖書での実際の表記
まず、聖書での「幻」表記
はどうなつてゐるかを見る
と、「文語訳」は「默示」。
「口語訳」(1955)では「預言」、「共同
訳」(1978)、「新共同訳」
(1987)、最新の「聖書協会
共同訳」(2018)はともに
「幻」となつてゐる。
岩波版も関根正雄訳も「幻」
である。

B S A の機関紙 V I S I O N
は1948年3月創刊である
『聖徒アンデレ同胞会史』にヒ
ると、この時すでに題字の下に
『箴言』29章18節が出てゐる
それには「幻」となつてゐるか
どの聖書に依拠したのかは判明
しない。「口語訳」が出る以前

「幻」の意味で使われてゐるのか。う
い　旧約聖書では、「幻」はど
う　「幻」の元になつてゐるへば
う　ライ語「ハーバー」の意味は
う　「神が特定の人物（預言者、幻
う　視者）を用いて、その意思を
う　告知する方法」（新共同訳聖
う　書辞典）木田獻一・山内眞編
う　2004、日本キリスト教団出
う　版局）、また、「聖書での幻は
う　単なる夢や幻ではなく、人間に
う　対する神の啓示」（預言者、默示
う　と同一視される。神は超自然的
う　存在であるから、人間にその意
う　志を伝える場合は、「夢や幻を用
う　いてなされる」（新聖書大辞典
う　馬場嘉市編 1971、キリスト
う　ト新聞社）とある。
う　神の意思を伝えるvision・幻。

ビジョンは幻か

大きな問題であつたろうと思われる」(2013年4月6日)。宣長、徂徠に通じる指摘で興味深い。

SA・キープ協会共催 / 日本聖公会後
青少年キャンプ案内

残雪の清田　自然と触れ合う3日間

期　　日	2020年3月30日(月)～4月1日(水)
場　　所	キープ自然学校（山梨県北杜市高根町清里）
対　　象	小学校4年生～中学生
募集人員	20名
申込締切	3月6日(金)
参加費用	18,000円+交通費（交通費の半額はBSA負担）
問合せ先	(電話)：BSA本部 03-3436-4325：自然学校 0551-20-7770 参加ご希望の方にはBSA本部から申込み書をお送りします。

翻訳も創作である構成されてい。18節も、全体が対句で「箴言」29章は、「幻」がなれば民は堕落する教えを守る者は幸いである。という対句になつてゐる。「幻」と「教え」が対比されてゐることがわかる。「教え」は「文語訳」、「口語訳」では「律法」、「新共同訳」、「聖書協会共同訳」と関根訳では「教え」、岩波版では「諭し」となつてゐるが、脚註では「諭しは律法の意か」としてゐる。さらに18節の前半の下の句の「墮落する」「新共同訳」は、「放肆(ほしいままで)にする」、「口語訳」は「わがままにふるまう」、「聖書文語訳」では、「ちりぢりにならる」、「岩波版」は「統制が取れなくなる」、関根訳は「弛緩する」。英訳は「perish(滅びる)」(『欽定訳』)、「cast off restraint(自制心を放棄する)」(『NRSV』)とまちまちである。元の言葉はひとつなのに、である。翻訳もまた創作であるといわれる所以である。

